



西宮市立浜甲子園中学校1年生 校外学習「身近な自然を訪ねる」

甲子園浜での環境学習について

「地域の人々に守り続けられてきた身近な自然に触れ、自然の大切さを知る」をテーマに、1年生101名で甲子園浜自然環境センターと甲子園浜の干潟を訪れました。事前に、甲子園浜を守るために甲子園地区PTA、地域の住民が力をあわせ、浜の埋め立て計画に反対し、浜を守った歴史について学びました。センター見学の日、「よみがえる昔の甲子園浜写真展」も開催中で、地域の方から鳴尾村の歴史について伺うこともでき、昔の甲子園浜や旧阪神パークの写真、当時の地図などに感嘆の声をあげる生徒もあり、甲子園浜の今までを深く学ぶことができました。

センターの展望室で望遠鏡をのぞき、鳥たちの姿に感動する生徒、干潟で生き物探しに夢中になる生徒、海に浮かぶ鳥たちの姿をスケッチする生徒など、皆それぞれに自然について考える素晴らしい機会となりました。



↑ センター展望室

地域の方のお話熱心に耳を傾けていました →

<生徒の感想>

- 今回の学習で学んだことは、私たちの周りには、いろいろな自然があるということです。他にも、カニのオスとメスの見分け方や甲子園浜の歴史についても学べました。甲子園浜には自然がいっぱいで素晴らしい場所なので大切にしようと思いました。
- 甲子園の浜にはとてもたくさんの生物がいて、特にヤドカリが多かったです。施設にあったカニの脱皮していった殻は、だんだん大きくなっていて、とても面白かったです。たくさんの自然に触れられて良かったです。
- 今日の校外学習はとても良かったです。僕は甲子園浜が家の近所にあるにもかかわらず、しばらく行っていませんでした。久しぶりに行くと、秋で空はきれいだし、海は光を反射して光っているし、小さいカニとかいて、「自然っていいなあ」と思いました。この気持ちを大切にしていきたいです。

エココミュニティ会議 こんな活動しました

●甲陽園エココミュニティ会議



甲陽園エココミュニティ会議は2009年1月に発足し、今年で8年目になります。

その間『大池周辺の自然を考える』をテーマにいろいろな活動をしてきました。

大池の周りには、いろいろな木が育っています。大きな木、小さな木、冬には葉を落としてしまう木、きれいな花を咲かせる木、香りのする花をつける木、ドングリになる木…。気を止めずに通り過ぎると見落としがちですがよく観るとそれぞれ違います。大きな木は、いつから生きているのでしょうか？誰かが植えたのでしょうか？春と秋では、姿もかわります。刈りこまれてしまって小さくなってしまいう木もあります。

10月23日、秋の半日、親子で大池の周りの木々の一部に名札をつけました。(参加者大人13名、子供12名)

●上ヶ原南エココミュニティ会議



11月5日、「にしのみや ふるさとウォーク2016」が開催されました。169組539名の家族やグループが参加しました。今年度は門戸幼稚園をスタートし山陽新幹線がトンネルに入る所となっている公園、甲東梅林、関西学院構内古墳、上ヶ原用水分水樋などをめぐるコース。12カ所のチェックポイントでクイズを解きゴールの能登運動場に向かいました。上ヶ原南エココミュニティ会議は、八幡神社のポイントを担当し、活動紹介やドングリ展示など自然を楽しむ展示をしました。

「八幡神社が武士の神様と知っておどろきました！」
「いつも歩いているコースでも八幡神社があることを知らなかった」「八幡神社の海拔が80.3mあったのがおどろきでした」「家の近くだったけれど知らない道が沢山あって新発見がいっぱいありました」と感想をもらいました。

これからの環境学習都市としての西宮

12月23日、西宮市役所東館大ホールにおいて環境まちづくりフォーラムが開かれました。参加者 105 名。第1部は、環境学習都市宣言に際し、立会人として臨席していただいた元環境省事務次官炭谷茂氏を迎え「学びあい、支えあう社会を目指して—環境学習都市・西宮への期待」と題した基調講演をしていただきました。



現在、「環境問題」だけの関心にとどまってはいけない社会的問題が3つ存在していること、具体的には「子ども・児童虐待」、「子どもの貧困」、「障害者の社会参加」の問題があり、環境福祉学の観点からは、「貧困層と公害の関係性が強い」ことや、「子どもと自然の関わりの希薄化」が、登校拒否や発達不良などをもたらしており、子どもの心に大きな影響を与えている現状をご紹介いただき、来場者は炭谷氏の講演に熱心に聞き入っていました。

また、地球温暖化問題についても触れ、パリ協定は画期的なもので、先進国では事実上の石炭石油の使用禁止にも等しいものだが、この大きな目標に対して、住民力が活かされると説明いただきました。

そして、今後、「住民力」が求められていく中で、環境学習都市宣言をした西宮市は大きなポテンシャルを持っている点を高く評価いただきました。



パネリスト
 甲東エココミュニティ会議代表 山崎由美氏
 西宮市社会福祉協議会常務理事 清水明彦氏
 生活協同組合コープこうべ理事 上田久美子氏
 西宮市教育委員会教育次長 加藤周司氏
 恩賜財団済生会理事長 炭谷茂氏
 コーディネーター
 NPO 法人子ども環境活動支援協会理事 小川雅由氏

第2部パネルディスカッションでは、パネリストがそれぞれの立場で取り組んでいる「地域力を高めること」をキーワードにした活動について報告いただいた後、「学校教育については、知識だけでなく、社会と結びついてしっかりと物事を考え、生きていく力を身につけさせようという考え方が学習指導要領に反映されてきている。」

「甲東エココミでは、地域の夏祭りの中で、来場者にごみ分別を指導する役割を中学生が担っており、その結果、ほぼ全てのごみを分別できており、祭りの終了時には、ごみ袋が整然と並ぶ状態になっている。」

「青葉園では、施設の重度の心身障害者の人たちが、地域へと継続的に関わる取り組みを昭和56年から続けている。紙漉きなどの作業を園内で完結させるだけではなく、地域の小学生と関わる形での体験教室を企画する等、地域との共生の社会作りのプログラムを構築している。」

「阪神・淡路大震災をきっかけとしてボランティア活動は広がったが、その活動を地域に根付かせるための財団として作った経緯があり、市民や企業からも寄付を募って、そこでのつながりを作っていきたい。」などの議論が交わされました。

最後に炭谷氏から「昨今の世界の動きを見ていると、アメリカやヨーロッパでは、社会の分断を進め、地球温暖化も根本から否定する姿勢が見受けられており、懸念している。この流れを止めるために、国の動きはもちろん大切だが、「地域」という単位で小さな草の根の動きを起こすことで、人々にとってより身近に感じる動きとして共感を生み、大きなうねりとなって、影響を与えていけるのではないかと期待している。」というアドバイスで締めくくっていただきました。

エココミュニティ会議交流会

2月25日、西宮市立中央図書館講座室にて、エココミュニティ会議交流会が行われました。併設する西宮市立市民ギャラリーでは、EWC環境パネル展が開催されており、学校や個人で取り組んだ子供たちの作品や各エココミュニティ会議の活動紹介ポスターを見学しました。



他地域の活動が参考になりました

交流会では、「学びあい」「参画・協働」「生物多様性」「快適なまち」「資源循環」「温暖化防止」「良好な環境」「国際協力」という8つの視点から、様々な団体が地域で行っている活動を書き出すというワークショップを行い、地域理解を深めていく大切さを確認しました。

地域での社会活動、環境・福祉・人権・平和・国際などを考える活動をした時に「エコスタンプ」を押印してもらうカードです。一人一人の活動がカードを通して、地域のつながりを生み、持続可能な地域づくりに役立つことを願っています。

市民活動カード

エコアクション事務局までお送りください。

公民館窓口から送ることもできます！

15活動で「エコペン」プレゼント！

活動終了は 3月31日。

4月7日(必着)までに事務局にお送りください。

エコスタンプ、市民活動カードについて お問い合わせは
 エコアクション事務局 (0798-67-4520) まで

社会的な活動として地域にその成果が還元されるしくみ
「持続可能な地域づくり・サポート基金・にしのみや」

サポート基金についての お問い合わせは
 NPO 法人子ども環境活動支援協会 (LEAF) まで
 TEL: 0798-69-1185 FAX: 0798-69-1186